

4 モエンサイディングの重ね張り工法

4-1 重ね張り工法の標準施工法

3) 胴縁と留付ビスについて

- 胴縁材はベイツガ材やスギ材などの乾燥材を使用します。厚みは18mm以上とし、図のように施工方法に応じた厚みとします。
- 既存壁がモルタルの場合、胴縁の留め付けには専用ビス(JKV1000: $\phi 4.8\text{mm} \times 90\text{mm}$)を用い、500mm以下の間隔で柱・間柱などの躯体へ留め付けます。
- 専用ビスは基本的に振動ドリルで施工します。既存モルタルの状況により施工できない場合は、モルタル壁に $\phi 3.5\text{mm}$ 以下の先孔をあけて施工します。
- 既存壁が窯業系サイディング釘打ちの場合、胴縁の留め付けにはコーススレッドなどの保持力の大きいビスを用い、500mm以下の間隔で留め付けます。ビスの長さは、柱・間柱等の躯体へ25mm以上かかる長さで、ビス径は $\phi 3.8\text{mm}$ 以上とします。
- モエン-M・Wを重ね張りする場合(図1・図4)、モエン用釘を柄目地部に留め付けないようにします。

	既存モルタル壁	既存窯業系サイディング壁釘打ち
釘打ち施工(モエン-M・W)	<p>図1</p>	<p>図4</p>
金具施工	<p>図2</p>	<p>図5</p>
	<p>図3</p>	<p>図6</p>